

GAME REVIEW

『SPECIAL』

DOMESTIC DEVELOPER

五島千尋

アトラスの『世界樹の迷宮』のキャラクターイラスト
のコントラストを参考にして人物を描いた



私には批難する理由がある

九州のデベロッパー、パブリッシャーは友情のプロダクトデザインを否定している。

田川タイプ、tagtypeを否定している。

そなものはデベロッパーではなく、デベロッパーだ。ペニスのPをスペルに入れる。

サイバーコネクトツーとレベルファイブに送付した資料には、tagtypeのホームページのリンクが作られたデジタルデータ、それを送っている。それで今こうして私が、記事を書いていることで察させられるだろう。

tagtypeはニューヨーク近代美術館の永久収蔵品に選ばれている。しかし、ゲームに回帰することは、無かった。

九州は、えとう乱星さんが暮らしているだろう土地で、田川さんの出身地でもあるはずだ。戦後のポリオの流行で、手足が不自由になってしまったえとう乱星さんのところに近所の田川少年が来て、一緒に遊べるものとして器用にテレビゲームを遊んだ思い出が、田川さんにtagtypeを作ることになる。

町田で子供時代を過ごした思い出が『ポケットモンスター』を作ったような、田尻少年のことをわざわざ引かなくていい。

サイバーコネクトツーは資料すらみていない。それで地元愛があるジェスチャーやポーズをするか？ 現実にはえとう乱星さんや田川さんと交流をはかるつもりもない、そんなところが亜細亜主義を持っているだろうか？ 玄洋社から、遠く離れてしまったのだろう。

私は田川さんに恩返しがしたかったのだが、それ自身をゲーム業界側は選んでなかった。

あんまり表立ってやるつもりはなかったが、身障者と健常者をつなぐ役割を担ったテレビゲームの思い出が作らせたプロダクトの資料を見もしなかったゲーム開発会社を、支持できるだろうか？ 何度も書くことになるだろうが、ソフトウェアをプレイしなくても判断する消費者行動を認めなくてはいけない。

正直、ゲームソフトなんて作らず、tagtype普及のためのソフトウェアを市場にドロップされればいい。その方が社会のためになる。こういうこともしていこう、というのは逆に意識高い系で除外されるのだろう。

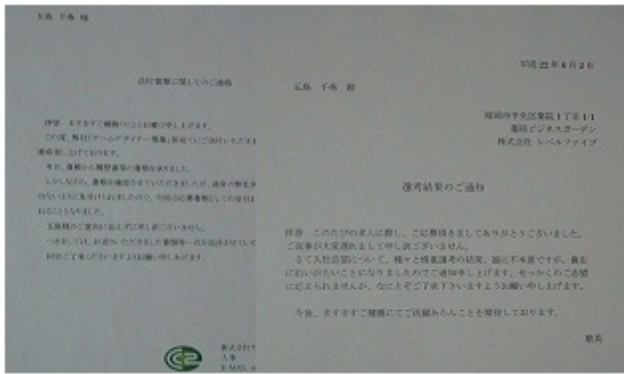
誰かのためになることをしても、それは誤配を招くだろうし、現実にはできない。このように、うまくいかない。だから少年マンガのような、うまくいくフィクションは商品価値になるのである。

あらかじめ、言っておかなくてはいけないが、別に私は障害者の味方ではない。健常者と同じに、消費者と公平に見ている。

本当に障害者の味方になるためには、事故で両手を切断した人間の射精介助ができなければいけない。

そして、ペンで上げ底されたなら、ペンで殺される覚悟も持たないといけない。そうでなければ、神父の覚悟をまったく理解していない、『ジョジョの奇妙な冒険』の原作を理解していないということだ。

私は神父と違い、悪を引き受けた。悪を自覚している。



『俯瞰の男』の日本語訳された「力書」と同じく CDデータ「友情のプロダクトデザイン」とのリンクが貼られている



レベルファイブと サイバーコネクトツー の通知書

[友情のプロダクトデザインは否定されている](#)

西原理恵子さんの息子がほしがる『ジョジョの奇妙な冒険 オールスターバトル』を「クソゲー臭い」と一蹴。

どんな内容かと言うと「『お口の中をドメストしてやるよ』と言われて、ペニスを口に突っ込まれて多量のスペルマを口内射精されたような」な内容である。

田口的には、「セシをかける」である。子供っぽく田口の真似をしたいただけだが、生死をかけるのではなく、精子をお口いっぱいにつけられたのだ。（これのおかげでホワイトバレンタインのイベントで「お返しがほしいNO」とチョコ棒を指し出すスー先生というネタを思いついた）

その批判は課金内容が集中したけど、これは『ジョジョの奇妙な冒険』が『アイドルマスター』みたいに売れると踏んで、ぜんぜんそんな事はなかったという、荒木の顔にドロを塗る始末。

セシをかけるじゃなくてよかった。

スタミナ制だけど。

中川大地さんに「時間泥棒」と言われたスタミナ制は、格闘ゲームと相性が悪いのでは？ そもそもまどろっこしいストーリーを説明されるのが面倒でスキップボタンを鬼連打する人たちが、スタミナ制を待てるわけがない。

長年、格闘ゲームを支えてきたのは、ストーリーを説明されるのを待てないコアなゲーマーたちで、さらに原作ファンのジョジョラーが求めていたものではない。ハブラシでも大阪にあるという名前が同じ中華料理屋でもなんでも買ってくれるアイマスPじゃない。

課金で時間をなんとかは…後だしジャンケンだけど、もっと違うシステムだったら、たとえばネット対戦を促して、勝っても負けてもポイントが得られて、それで時間を買うとか、そんなシステムじゃないからなあ。

アイマスで思い出したけど、「Febri」という雑誌で、「ちかちかたるとたたん」というマンガの中で、「課金サービスを使うには、まず課金が必要だよ☆」と、ギャグでやってることを、マジでやってしまった。猫がスマートフォンを投げ落とす。2013年の春に振ったネタを、夏に回収するみたいなことが起きていたのだ。

だけどね、そもそも、おかしいと思っていた。

サイバーコネクトツを。

ゲームキッズ御用達の雑誌「ゲームラボ」の特集記事「デベロッパーマニアックス」を読んで

、

「あれあれ？ サイバーコネクトツが無いぞ。どおしたあ？」

と、思っていた。今なら、無力デベロッパーに分類されてしまうだろう。無力デベロッパーか。

さもありなん。

平坂読にホーンリバー帝国と…それとはちょっと違うKADOKAWA系以外で『ナルティメット』をほめているのを、みたことがない。そういえば、マンガ家の岸本は知る人ぞ知る、クソゲー好きだからASBは最高のプレゼントになったんじゃないか。

難読名・箭本進一（やもとしんいち）さんが記事に書いたら、本物。

まず、プロレスファンで総合格闘技の歴史も知る、リアルでの格闘技系興行に造詣が深い。すると自然、格闘ゲームに対しても目が肥えている。

アマチュア作でも『マッスルファイト』を高く評価している。当時バンダイが出した『ガンダムW』をいいゲームとしている。

もしかしたら、『ナルティメット』シリーズの記事もどこかで書いているかもしれないけど、これは保留にしておく。

ともかく『超クソゲー』なのに、いい格闘ゲームはほめるという、普通のゲームレビューがまじっている。ボクたちボンクラ読者は『エキサイティングプロレス』の記事に書かれているような、これが本当のセメントマッチと言いながら“女子にコンクリの上でパイルドライバーをかける男性プロレスラー”のような、クラッシュ・ギャルズも真っ青な“裏ギャルゲー”なことができるゲームの存在を知りたいのに、なんでそんな余計なものが入っているのか？ 格闘ゲームへの愛である。

獏さん（説明不要の夢枕獏）がらもさんを「屈折の果てに愛に辿りついた」と書いたように、「屈折の果てに愛に辿りついた」のが箭本さんとわかるからだ。

プロレスファン全員の共通認識、“大人になってもプロレスを観るのは、屈折している”からこそ、やがて愛に辿りつくのである。

エコーソフトウェアの『デスクリムゾン』の存在があって、評価が逆転して“宗教が生まれる瞬間”なら、その逆、魔法が解けた瞬間だ。

魔法が解けるとどうなるかというと、

「面白くないソフトが売れてしまったら、その後面白いソフトを作っても、売れなくなる」ということになる。

押井本の言葉を引けば、戦術的成功は戦略的失敗を覆せない。

たしか「ジャパコンTV」のVTRでイベント出演した松山洋は、

「最近、つまらないゲームないよね」（のような発言・一字一句同じじゃない）

と、ASBの発売前に発言している。

そして発売後のブーメラン。

私にお金があるなら、多根清史にギャラを払って「未来に残すゲームなコトバ」復活編で、松山の今までの発言を集めて、多根さんに思う存分面白い記事を書かせてあげたい。（「そこあに」出演時の発言も文字起しして、くむさんのフリを回収）

「んなこたあない」以来のヤツ（大爆笑記事）が読みたい。

早く、「究極のジョジョゲー」を発言した媒体を見つけて、それをこけおろす、あんまりやりすぎて、ゲーム業界から発表媒体が距離を置かれちゃったけど、ちょうど「CONTINUE」の復刊と松山の本がタイミングを裏で示し合わせるように出ているから、「カイ やれ」みたいに「やれ」と、思う。

そして、当時これだけの問題が起きているのに、のこのイベントに行って、ピョコタンに罵られる。（本当は黒社会と通じていたらピョコタンやばかった）

エンペラーカードで奴隷が皇帝を倒すみたいなの…あわわ。（阿部さんの真似）

岡田斗司夫の『ぼくたちの洗脳社会』で言うところ、イメージキャピタル（想像上の資本）を

自分で壊しに行っている。

糸井重里さんも同じような、吉本隆明の思想から来る「想像上の資本」で、キャッチコピーで企業の想像上の資本を増やしていくのがコピーライターの仕事と、酔え約すればこうなるだろう。

それで岡田の言う価値評判経済で大きな負債を抱えてしまったと、自覚が無かった。

それが、もともと無かった。

もし、これが自分のボスだったらと思うと、もう笑えない。

普通なら、部下か誰かに、「クソゲー作ったから炎上しているのに、イベントなんかに行くな！」と、穏やかな表現の諫言や上からもアドバイスがあるはず。それを聴かずに出るということ事態、ちょっとこいつはおかしいんじゃないかと、人格を疑いはじめた。

もし、本当に部下に何か言われても、イベントに行ったなら……

「これをやったら嫌われます。人は誰しも自分が冷遇されていると気づいた瞬間、忠誠心がゼロになる悲しい生き物」

と、がっぷ獅子丸先生は書くだろう。

周りのスタッフの言うことを聞かないのに、「レースゲームは微分積分の結果の反映にすぎない」と言っても、「なにそれ？」という反応しか返ってこないだろう。

こういう上司を持たなくちゃいけない人間たちには、「止せ」としか言えない。

自分の中で、クソゲーライターのストッパーが外れた。大丈夫。人の言うことを聞かないタイプだから、百万回松山のことを嫌いだと言っても、本人は聞いてないし、そもそも人の話を聞かないから、大丈夫。

聴く耳もたないもの。

人事の意向はトップの意向。公開された情報を気にして、人事採用検討時の資料を見てない。優先順位がかおかしいだろう。それがちょっと、おかしいな、とおもう切っ掛けである。

人の言うことを聞けるなら、ピョコタンにマンガに描かれるわけがない。西日暮里周辺のちょっと性格が「ヒネってる」人たちと同水準だと思われる。

そうこうしている内に、ほとぼりが冷めたと思っていたのか、荒木飛呂彦の顔に泥を塗ったのに、ファミ通に松山の記事が載って、ジョジョ立ちしている写真が掲載されている。

「こいつ、狂ってるよ!？」

と、普通思うだろう。

これはジョジョラーを挑発している。

鬼教官は松山を認めているのか？

ライブでナランチャのポーズをして、尻の骨を折った愛すべきジョジョラーしょこたんは認めているのか？

客観的でなくても、ジョジョファンであるジョジョラーが、ジョジョのクソゲーを作った後にその開発者がジョジョ立ちしていたら、仲間意識をもたれずに「『ジョジョ』を冒涇しているのか、こいつ?」と思われてしまうと、誰も気づかなかったのか。想像の世論として私はズレたことを考えているのだろうか？ あまりにも世論とズレたことをすると、雑誌に客が離れる。

ピョコタンに罵られたことが何のクスリにもなっていなかった。

「これは何を言っても、何書いても大丈夫だろ」

これはもう、おかしい。

なにかおかしいぞ。

いったい、どういうことになっているのか。

それから、ファミ通がどういう記事を書いて、どんなことをしているのか、注視していた。すると、ファミ通がASBに一枚かんでいる。

当時、毎週毎週、絶賛開発情報を書いて、それはゲーム雑誌なのだから、仕方ないけど、とくに悪名はクロスレビュー40点で、ゲーマーに期待をもたせて、ふたをあけたら、あの事態である。

たぶん、ファミ通のレビュアーは、お金をつぎ込まなくても、出来る仕様だったのだろう。

予防戦争をしよう。

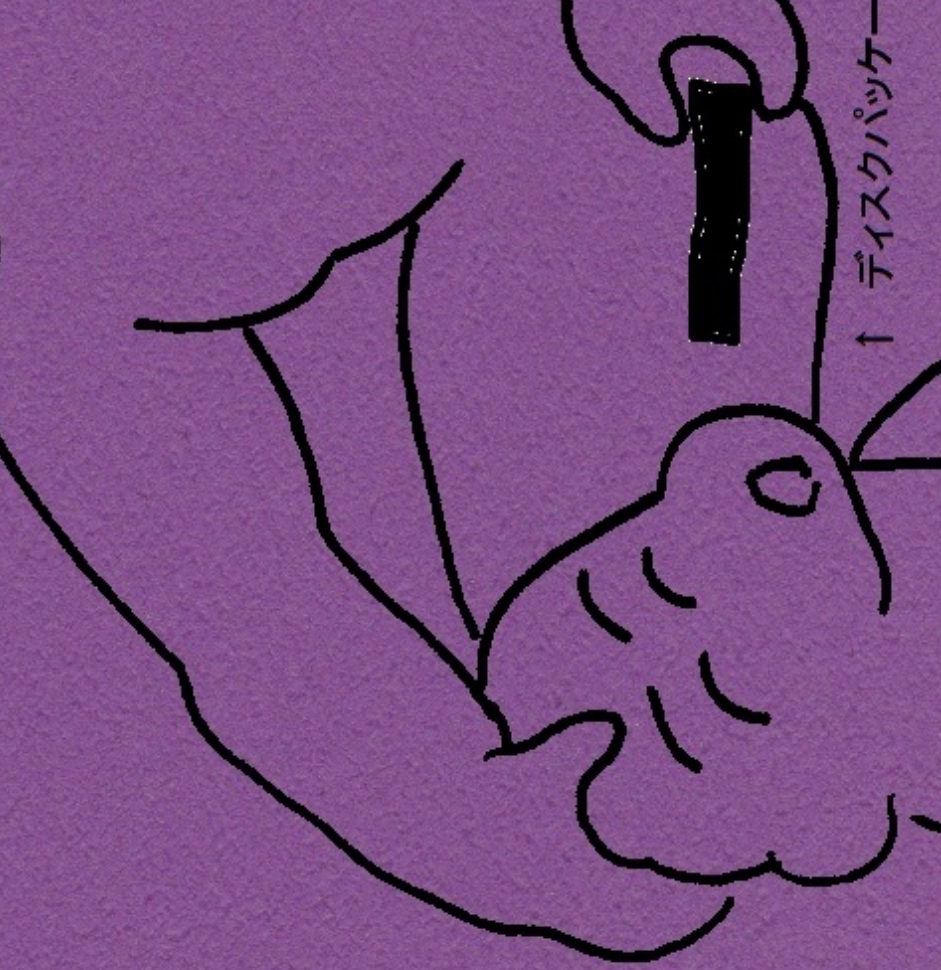


これは言っていること同じ



広告

『ジョジョの奇妙な冒険 オールスターバトル』
面白いから プレイしてみな』



↑ ディスクパッケージ

第一巻のイントロダクションにあった文書

みんなの期待値下げちゃお

「これ“お祈り”も無い」だからオールスターバトルができるわけだ

五島 千尋 様

私と同じ事が出来ても
労働力として
認められないのは
サイバーコネクトツー
の書類選考すらしない
という評価で
裏づけ済みなのです

送付書類に関してのご連絡

拝啓 ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、弊社「ゲームデザイナー募集」係宛てにご送付いただきました書類に関しましてご連絡差し上げております。

本日、貴殿から履歴書等の書類を承りました。

しかしながら、書類を確認させていただきましたが、通常の弊社求人への応募という意図ではないように見受けられましたので、今回は応募書類としての受付および書類選考はいたしかねることとなりました。

五島様のご意向に沿えずに申し訳ございません。

つきましては、お送りいただきました書類等一式を返送させていただきます。

何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

敬具



株式会社サイバーコネクトツー
人事
E-MAIL recruit@cc2.co.jp

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前1-5-1
カーニープレイス博多



久々に読み返してみても馬鹿正直に言えば、ひどく侮辱されたと感じます。

画像データを使い回すつもりが
どっかにやったので
また一から作り直した

ピョコタンの
本を宣伝する
なんて
不本意だ



リサイクル

でも(面白いから)
宣伝する



『ぼくは任天堂信者』

読んでないのでわからないが
ここに松山洋を罵るピョコタン
の姿が収録されているようだ

アボ汁シリーズもよろしく

アマゾンとか Paperback で買えよ

去年のカニング疑惑事件以来、私はスタンスを変えた。

「予防戦争の論理」

である。

第二次世界大戦の戦勝国の橋頭堡として、イスラエルは築かれたのだろう。

西側としては中東への入り口として、ナチスドイツの被害者であるユダヤ人たちに建国させ、そこから侵略していく魂胆だったのだろう。勝手に土地にフェンスを立て、聖書の時代のペリシテ人ことパレスチナ人の土地を侵食していく。

それを批判すれば、第二次世界大戦後の聖書『アンナの日記』を依拠した批難を浴びるのである。戦略としてこれほどのプロパガンダに比肩するのは、なかなか見つからない。

イスラエルを脅かそうものなら、予防戦争の論理で強攻策を西側の戦勝国は取るのだ。

そもそもイスラエルを作ったのはイギリスである。

戦前はあの辺り一帯はイギリス領の管轄地で、善意としてはユダヤ人の民族国家を作らせてあげたい、悪意としてはこれ以上ユダヤ人がイギリス本国に流入させるわけにはいかず、厄介払いをした。そうしないと、英国内でユダヤ人排斥運動が起こる懸念があった。難民流入で国内が混乱するのを事前に予防したのである。（現在のEUから離脱しようというブレグジットも似たような理由）

蛇足が過ぎた。

予防戦争の論理として、サイバーコネクトツを攻める。

ファシズムやナチズムでユダヤ人差別をする悪のように、加害者のそしりを受けてもかまわない。普通、ここまでのことは言わない。

宣言しておけば、ジョジョのゲームを作るときにポーカーをして魂のコインをかけるゲームを作らせないためだ。それはカプコンが作ればいい。

これは、

「もう五社関係にカニングされたら、かなわん」

という、明解な動機だ。

いや、スタンスを変えたから新明解である。山田先生の「恋愛」の用例“合体したい”なのである。そして、ケンボー先生と山田先生を分断する作戦でもある。

この場合、原作者である荒木飛呂彦がケンボー先生で、サイバネツが山田先生である。私は金田一春彦にならねばならない。老人力である。

カニングをした、しないの真偽よりも、そもそも入社させなかった人材のアイデアと被ったら、ダメだろう。

相手側にも利益がある。現実問題としてアイデアが被ってしまった『エクスプローラーズ』は、再販がかからず半値で投売りされている。利敵行為にして、理的行為だ。

剰余価値の搾取ならまだ話しはわかる。

労働力の詐取、支払われる労働債権があるからだ。

仕方ないから、すこし出すけど、

「アレでしょ？」

アレって、『岸和田暗殺』からきているだろ？」

と、おおっぴらにしていると、自意識過剰と思われる。（宣伝）

その件については（それ以外にも）気づいているから、基本的に「イジさん、直接なんらかの連絡をしているんですよ。そこはゆるしているんです」

本当は何も言っちゃいけない。

クズカゴで牽制していたが、足りなかった。

今、あいつの渾名はバキュームカーだぜ？

おさらいついでに書くが大河内一樓をクズカゴと言って牽制していたのだが、最近Pixivで「糞みたい」と言われたから、アイツはバキュームカーだよ。上位種に止揚したのである。

それについては皆、目をつぶってあげてほしい。

だが、五社はダメだと。

五社だけは許さん。

そこで予防戦争の論理で、やられる前にやる。

ターゲットは松山だ。

これは映画『ソーシャル・ネットワーク・サービス』の兄弟のようなものではない。共同創業者として事業をはじめたのに、規模拡大とともに切られる側になってしまった方だろう。カンニングされてしまったら、ハーバード・コネクションのパクリだとかで怒るぐらいではすまない。

ともかく、いまだに「少年ジャンプ」を読んでいるというのを臆面も無くアピールできることに、少しこちらの気が引ける。

普通、ジャンプイズムを否定して少年は大人になる。

これは大人になれない少年を高く評価するか、それともアメリカに「12歳の少年」としてホモレイプされるリトルボーイとして評価するか、二分される。

予防戦争の論理の文脈から、後者であることは必至であろう。

まず、サイバーコネクトツーは人材募集をしているけど、私を越える人材でないと、採用しないよ。

その求められる人材とは、空中に浮いたなら死ぬまでパンチを連打して無限に殴り続けられることができるようにする人だろう。それはオラオラを再現しているので、原作賛歌だ。

「グッドっ！」

冗談は別として、「ななつとみつつとひとつ」を見せたんだから、あれ以上のモノを思いつける人でないと、ダメなのだ。

画像挿入

どうしても書かないといけないことがあるだろう。

まず、プライムミニマルミュージックはゲーム業界では評価されない。

クリーチャーズとレベルファイブとサイバネコネットツォはそれを証明した。特筆すべきは神父が落ち着くために数える孤独な数字を奏するための手段である作曲法を、サイバーコネクトツォが否定したことだ。

書類選考すら、していない。これが無限コンボを産む原動力だろう。

この場合、原作賛歌は口先だけだということだ。

プライムナンバーを否定することでプッチ神父を否定されているが、ミニマルミュージックを否定するのは、久石もマイケル・ナイマンも否定することだ。

現実的に考えて、ゲーム業界はクインシー・ジョーンズをもじった芸名・久石譲の知名度しかほしくないのであろう。それは佐村河内のプロフィールを必要とし、音楽的実質は必要なかったカプコンと同じではないか？ 「ノヴェンバー・ステップス」のような和楽器をオーケストラに組み込むことに、さして意味を感じてはいないのだろう。新垣さんが中間にいたら、「この人をゴーストライターとして雇ってないか？」と疑うだろう。咳払いしただけで佐村河内先生の意図がわかるなんてヘンだろう。

カプコンに同意して、私も意味を感じないと表明した方が良いだろうか？

答えは否である。

プライムミニマルミュージックは、作曲法を提示しているわけではなく、アルゴリズムを教えている。ゲームプランナーとして、かなりわかりやすい素数探知アルゴリズムを見せている。小学生にもわかりやすいものを作っている。

それを大人で理解できないなら、ダメだろう。

自分のスキルや実力を理解できないボスの下にはつけない。

もちろん、フィボナッチ数列も否定しているということは、黄金長方形も黄金螺旋も真に唾棄すべきものと思っているだろう。

最初、責任を感じていたけど、そんなことないと思う。

西尾維新に悪いと思う。『刀語』のゲーム化に、道筋を立てられたかもしれない。

だけど、人一人入って、どうなるものでもない。

誰か一人組織に入って、それで組織が上手くいくなんて幻想だ。

マンガ『キャプテン』から現在『Days』まで、がんばり屋が入って、チームが変わっていき、好転していく。

そんな事は無いから、商品価値がある。

エンドユーザーをエクспロイトーションする。

執筆中

サイバーコネクトツィー



ピョコタン、ありがとう

ピョコタンが、というかブルボン小林のマンガ評でもとりあげられているエリートマンガ家がピョコタン。彼も知らない無知蒙昧な読者のことはほうっておくけど、

「情弱だから“大切なものを奪われそう”になっているんだよ」

オールスターバトルの噂を聞いて、よせばいいのにプレイして、怒りを感じて一ネタのために松山が出ているイベントにわざわざ行くのである。

くりかえすが、松山洋がゲストに出るイベントに紛れ込んで、ASBのことで罵る。エンペラーカードで奴隷が皇帝を倒すみたいなの…あわわ。（阿部さんの真似）

とりあえず、このあたりで松山が変だぞ、こんな奴がボスだったらイヤだ。（笑いながら）社員かわいそう。後にその社員に同情できないとわかる。

あれだけ叩かれているときに、のこのこイベントに出ないよ。

だが、ワタミの社長みたいなヤツだと思えば、さして気にすることでもない。

「ピョコタンは松山に噛み付いたけど、これは非常に危険です」

イベント会場を出て、ピョコタンにいかつい男が「マンガ家だってな？ 二度あんなこと言うんじゃないぞ。いきがってると、マンガ描けなくしてやる」と、すごまれることがあっても、おかしくない。

ファミコン親父ジャーナル的にはサイバーコネクトツーは九州だから、そうなる、工藤会である。

日本で唯一特定危険指定暴力団として、認定された恐れ

工藤会というのは反山口組系であるということは、分裂騒動がある会津小鉄会と関わりがもてず、初心会の卸売業者に売りさばけないよ。

どうしよう？

ヤクザのバックがなければ、テナントなんて借りられませーん。

ソニー・コンピュータ・エンタテインメントが暴力団の関わりを絶とうとして、流通革命に乗り出す。まだ会社を設立する前、任天堂と組んでいたときにおそらく話していて、交渉決裂はその後の対立を見れば明白。

なんで、流通革命しようとソニー側がしたのか、それは初心会体制では、二次流通にあやしい企業舎弟が入り込んで、現在では復刻ダウンロード販売されないあやしいソフト（ゴルビーのパイプラインのことじゃないよ）を作り、抱き合わせ商法で人気ソフトがほしい小売店に売っていたとか、いろいろ問題ありそうな、東映の映画みたいな話（実際に初心会を見たわけではないが『仁義無き戦い』シリーズみたいにどうみてもそのスジの人たちがいたのか？）が燻っていた。

そうした打診を山内社長は「やめなはれ」と、冷淡な態度をとってソニーの関係を解消、フィリップスに鞍替えしようとした。そうなる、ソニーも黙ってられない。任天堂へのルサンチマ

ンをパブリッシャーに刺激し、そして企業舎弟に吸われているゲーム業界の利益をピンハネされないように、まあ構図として、わかりやすくすると、ジョブズがウォズのボーナスをピンハネするみたいなことをさせないために、立ち上がったのである。

大手マスコミがゲーム業界の記事でソニーを推すのは、こういう裏事情を知っていたと思われる。しかし、下手に表を出せば、ブーメランとして自分たちにかえってくる。

任天堂が花札の末端の小売店、コンビニエンスストア並にあったタバコ屋に、花札をさばかせていた中間卸売り業が「小指で頬をなぞる」ところがあって、戦後の玩具業界に後発で参入した任天堂をかなりサポートしてくれたのは、

春日太一芸術博士の『あかんやつら』みたいに東映とずぶずぶだった暴力団というか、映画会社みんな、そうだった。仁義の五社協定があるのに、俳優を引き抜いたら、それは仁義無き戦いになる。

山内の親父の伝記が無いのは、こうした理由があろう。

徳間康快の本はあるけど。

ところが、マスコミはなんとなくわかっているが、書かない。そして書けない。

「インテリが記事を書いて、ヤクザが売る」

今の新聞社は自尊心から、「営業」できなくなったから新聞が売れないと、認められない。自力ではなかったのだ。なんか、どこかで聞く話だね。

発行部数を水増しするための押し紙も、地元暴力団の協力があって、「暴力団とつるんでいるから、文句が言えない」と…これクソゲー開発の構造と同じではないのか！押し紙してむりやり部数を上澄みして広告料をあげるのと、いい勝負である。

ファミコン時代もクソゲーをドロップした後に客から文句が来たら、「小指で頬をなぞる」中間卸売り業の人が出てきた…かもしれない。

暴力団が売っているから、苦情をいいにくい。だから、いくらでも低質なソフトを出すことができるように、構造が似てきた。

逆にソニーにはそうとうなケツ持ちがいると、想像できるのだが、しっぽをつかめていない。

公共放送で海外でサクラを使ってトランジスタラジオを営業したと、自慢したりしているのだが、普通、公共放送でこんなことをおおっぴらにしているのかはともかく、地元のギャングかマフィアに根回しが無いわけが無い。

猫組長の連載記事を読むと…ちびっこゲーマー（小中学生のクセに毎週ファミ通を買っているスネ夫なお前は除く）にはわからないと思うので、説明するとツイッターにネコの写真をあげてばかりいる反社会勢力からカタギになった人が雑誌に記事を書いている。戦後のどさくさにまぎれて、組織犯罪勢力が東京に進出したと、ある。

そこがあやしい。

ソニー村とどのくらい距離があったのか、そこから線を辿っていけば、手がかりがつかめるんじゃないか。

暴対法以後はできないけどね。

さらに暴排条例は、密接交際者も

中央から離れている遠隔地であることが、二重に地形効果がある。

まずコスト。

都心100万の人月を、地方では80から90万の人月として計算できると、仮定しよう。90万をパブリッシャーに出させて、80万の人月費用に抑えたとする。

仮に100人いたら、月1000万をケツ持ちの暴力団に上納金として払える。

「(よだれをたらしながら) ええ～しのぎやあ、なあ兄ちゃん」

だから、こういうことをやって開発者の給与のピンハネしているとか、当時のスクウェアがヘッドハンティングしていたのは、「足抜け」させるという功の部分があったのでは？ 雑誌「ゲーム批評」ではそういう部分は語られないけど。

みそ先生も、奨励していたのは、この裏事情があったのでは？

それはヒゲの若頭にバツテンされるわな。

かつて「インテリが記事を書いて、ヤクザが売る」と言われていた朝日新聞の記事によると、工藤会は構成員一人につき月2万円ぐらい、上納金を払うとされる。すると、こうした企業から月1000万は無いとして、数百万になるなら、いいしのぎだ。

いくらなんでも実際に直接、工藤会に払うということはない。

いしかわじゅん先生の『吉祥寺キャットウォーク』のように、観葉植物を常に入れ替えたり、喫茶店ならおしぼりのリースである。

新しいテナントの内装工事は必ずフロント企業に頼むとか、表向き経済活動のフリして、お金を入れている。ショバ代を直接払うことは無い。巧妙に隠されているだけで、資金が流れている。

それを断ると、デジキューブみたいに銃弾を撃ち込まれる。と、考えるのが普通。

で、なんで飛龍革命…じゃない。流通革命したソニーにそれは強力なバックがいると想像される。

こういう事って、バンダイとかバンナムになって気にしないのか、と思われるが、東電が別に原発作業員を調達する会社に、いくら中間搾取でカスリを抜かれても、まったく気にしているように見えないだろ？ むしろそういうことをさせて、うまく利用させる(される)事でもちつもたれずな

『白龍』みたいな話題だけど、逆に分裂前のサイバーコネクトの方が工藤会とつながっていたかもしれない。

その線だったのに、バンナムが資本を入れているKADOKAWAはけものフレンズ騒動で「指定暴力団」とか、文句を言われる。せつかく暴力団から足抜けしたのに、抜けた先も暴力団と変わりなかったという、新作落語のオチみたいだ。

問題は、人月の人件費は後払いだ。人件費を抜いた諸経費を引いて

その差分は、終身雇用制年功序列の場合、いつか払わないといけない。退職金をプールしている。後払いしないといけない怠惰理論なのである。

ピョコタンが松山に噛み付いても、そういう人間（小指で頬をなぞる）がすごんでこなかったということは、もう関係性は切れているということだ。

つまり、こういう記事を書いても大丈夫だということ。

ヤクザに狙われないから、いくらでも書いていいんだ。ピョコタンのスリップストリームでいくらでも書いていい。もうピョコタンには感謝しかない。

「ありがとうピョコタン」

お礼にマンガが描けなくなるようにアームブリーカーをしよう。リアルで「僕の腕がああ〜あんまりだあああああ」と叫ぶピョコタンを見て、大笑いする。（『1976年のアントニオ猪木』の影響でカメラの死角について眼に指を入れて両目に眼帯）

もう、アントンハイセルみたいになってしまったゲーム会社に、何を期待するのだろうか？



*スタッフが逃げている？

がっぷ獅子丸先生の『ゲーム業界のフシギ』なんて読んじゃうと、「なんかこうなんじゃなんですかね？」と憶測が想像されてしまいますが、結論から言うと、プログラマーが逃げちゃったんじゃないですかあ？ あの無限コンボ。「がっぷ式」で同じネタを読んだ気がするの、気のせいなんでしょう。

みそ先生の『大人のしくみ』で読者から来たお便りにあった、「クソゲーざんげマンガ」があるのですが、ゲーム開発途中で山田さんがいなくなって、開発未経験者ばかりでゲームを作り、雑誌では掲載されたけど、著作権上の問題で単行本未収録の欠番になっておりまして、今読み返すには大変苦労しますが、こういう事を書いちゃうと労を惜しまずに読み返そうとするハイエナみたいな連中がいるので、気をつけなければいけません。

こんなこと書くと馬場社長に叱られてしまいますから、あまり大きい声で言えないけど、「コプラに行け」と。コンシューマハードでリリースするソフトを作っているから、その会社が良いとは限らないじゃないですか？

意図じゃないとか、動機が悪いとか、そういう難癖をつけるのは、何かに似ているなあと、ぼんやりニコニコニュースなんて見てると、ワタミの社長が視察に行った居酒屋で女店長が手紙を読み始めるという、

「仕込んでんじゃねえぞ」

と、ニュースを読んだ人100人の内、128人ぐらい突っ込んだ話があるじゃないですか。つまり、ワタミの「お金のために働くじゃなくて、お客様の笑顔のために」を動機にしろと、これだけ不況下になって経済的理由で労働するのを否定するって、なんかちょっとおかしくないかと、疑うのは、ゲスの勘ぐり。

案の定、2017年2月17日付のファミ通で、ナルトの初週8000本オーバーでたいそう売れたゲームソフトの記事に、スタッフコメントが載っているわけです。

画像挿入

皆知っていることだから、いちいち言わなくてもいいんですけど、雑誌「サイゾー」の記事で書かれたように浜村通信には経営力はなくて、エンブレがKADOKAWAに買収されるまで「やばいんじゃないか」と、噂されていましたが、いろいろ時間が経過して角川ホールディングスという持ち株会社が出来たとです。

その株主の中には、広告代理店やバンダイナムコエンターテインメントもあるわけで、ほら、季節に一回バンナム祭りみたいに特集記事するのは、気づいていないトシマはいないと思うんですけど、つまりそういうことなんですよ。

金を出すけど口は出さない、レナウンさんとは違うのです。

山本さほのマンガも同じ号でスタッフを人質にとった話をしているけど、

だから、山本さほって、なんとなく好きになれないんですよ。

ところが、今度は「桜井政博のゲームの話をしよう」まで、この件を取り扱っている。坊主憎けりや袈裟まで憎いって、私のことじゃないですか？ 慧可の断肘入門を改ざんされて伝えられて騙された私のこと、

「ゴメンね、桜井さん。でも、変に動いたら、裏が取れていないことが信憑性を得てしまいますから、堪えてください」

泰然自若としていないということは、心当たりがあるってことでしょ！

軍略家の真田昌幸なら、こういうキツツキ戦法して、何かリアクションがあったら、思い通りうまくいって嬉しくてしょうがないだろう。

別に軍略家じゃないから、うれしくない。

軍略モノなら、「シェイクスピアロマン」でやっている。

むしろ幸村のほうだ。

必ず長考に長考を重ねた最善手、日夜研究して出した最善策を、頭の悪いやつらのせいで採用されない。

サイバーコネクトツーに入社していても、同じ事になっていただろう。

それが目に見えている。だから「サイバーコネクトツーに入社できなくて本当によかった」と言っても、信じない人がいる。

キツツキされたと思おう。仕方ないから

兄が所蔵していた「予備校ブギ」とラベルに書かれたVHSは、ポルノビデオが録画されていて、どう考えても声が伊集院光（田中健）の俳優さんが出演して、女優さんの肛門をいじる

年末の番組で昔、高座の裏で「うんこ食えたら10万円」という

傍証されよう

これがデジタル化されて、インターネットに放流されていたら、犯人は私だろう。

なぜなら、私は伊集院光しか、いじりたくない。

これは全部、伊集院に引き受けてもらおう。

ファミ通に連載を持っている人は皆いくらでも私を叩いていい。

全部伊集院光に返すから。

ずっとあるかわからないけど、『バイキング』で坂上忍が「これからは伊集院くんの楽屋、ちゃんと麵棒置いてあげないとね」と、言わせたいじゃないですか。

家庭内の立ち入った話、一面ホタルのところに今の奥さんを連れて行って、プロポーズしたという、

「Keyのゲームかよ」

それで、だいたい春頃か、年度末にサイバコネクツターの記事を書いて、翌週の表2？ そこにサイバコネクツターの人材募集の広告がありますが、ほぼ系列なので大っぴらにここ数年すれば、さすがにバレて業界で噂になっていなかったのが、おかしいぐらいですが、みなさん気づいていましたか？

玉さんの彼女をつまみぐいしようとしたファミ通出入りのライター、仮称は多根清史にしておくのが面白いかと。週文の方じゃなくて、「コミックビーム」の方でこのネタを載せていいんでしょうか？

奥村編集長が上の方に呼ばれて叱られていないか心配ですが、赤の他人のことですので、心配はしないでおきます。

なんでこんな丸わかりなことするのかって、
カンタンなんですよ。

ゲーム不況だから、主要なスタッフでも会社が立ち行かなくなって、他に働き口を求めて有能なスタッフが労働市場に出るんですよ。だから安い賃金で高い労働力を利用できる、なんか『韓非子』に書いてありそうな君主有利の経営ができてしまう、資本の論理とかワタミ理論。

ゲーム開発者に偏見をあえて持たせてもらうなら、ゲーム作ってるか、ゲームやってるか、それ以外はホビー関係の趣味に勤しんでいるような人間に、あんまり

ゲーム業界にもういれないから言いますが、プログラマーがコミュ障で性格がアスベスト指向なのか、それはただの偏見か、観測上本当なのか、

バラで売れなくなっちゃったから、バンナムの女と一緒に出る
日野さんの対談する、

ゴーマンかましてよかですか？

「一人でも寂しくない者になれ！

頭数だけの人間になるな！」

これは本当はおかしいんですよ。九州の人にこれ言ったら仕舞じゃないですか？

「がぶ式」で「こんな職場、やってられるか。どうせソースコードなんて読まないザルなんだから、無限コンボを仕掛けとけ」みたいな置きみあげがあったんじゃないか、察するにあまりあるんですが、不況の焼畑農法みたいな、ゲームの労働市場から血を抜くやり方、いただけません。

山田さん説は正しいのか、

私がいたら、戦犯にされていたでしょう。現場から逃げていたと思います。

『世界樹の迷宮』のメインプログラマーぐらいしか雇いません
アトラスが潰れることをてぐすねひいてまっているんですね、

イヤだ、生き馬の眼を抜くソーシャルゲームに行きたくないって思って、自分が生き馬の方になっちゃったのかなあ、と。

コロプラに行って、ダメだったら、他にあたってください。

本日の結論

- ① ファミ通のクロスレビューでバンナムのソフトが出たら、12点ぐらい引くと調度。角川ゲームとアクアプラスは4引くと、実質に近いんじゃないでしょうか。
- ② 「やっぱり、山田さんだね」

ブラックジャックでいえば、「九州の大病院にいつもBJ先生に頼った大手術をしているところがあり、それを自分たちの力だと過信して、そういうバカが病院長にいて、大医療ミスをしてしまった」ということでは？

これが本当なら、桜井さんの天才性の証明になっている。

まず、一つ一つ話しをしていこう。

私はバランス調整ができません。

仕方ないので、桜井政博さんにでも、最終調整を頼もうかなと、思っているのですよ。カノンドーピングを五・六曲するアストロ球団的明日無き戦いをして作る「サイレントエフェクト」は猿楽庁とか、マリオクラブが必ず必要、トートロジーで説明するように、バランス調整ができません。

こんなんでは人のことを言えないが、もう現場にいることは永遠にないし、別に言ってもいいだろう。

「サイレントエフェクト」はトレジャー開発、最終調整を桜井政博さん、ゼロ年代最高の音ゲー。ストッパーが安定している巨人軍の原監督みたいなもので、自分の実力じゃない。

全部八時半の男、宮田のおかげ。

全部という事はないか。第二期政権は清武さんのおかげ。

だけど、サイバーコネクトツーでは作れないし、これは今わかっていることだから書けるけど、たとえ入社できても『ありえない未来の思い出たち』の執筆開始が遅れるだけで、いずれ描いていた。

キャリアアップにならないもの。

サイバーコネクトツーのソフトは、『ドットハック』（『押井言論 2012-2015』準拠）の頃から、猿楽庁がチューニングしている。必ずどこかにチューニングしてもらわなければいけないって、無力デペロッパーの証拠じゃないかと思われるが、今の時代というかやらない方が「そんなに貧乏なのか」と。

連邦VSジオン…じゃないや、『アイスオブヘヴン』の最終調整には桜井さんが手がけたのではないか、そうでないと、辻褄が合わない。

とある記事が三週間前のメ切で、だいたい五月初旬か四月下旬で、ハウステンボス行った後か前に、『アイスオブヘヴン』を最終調整したと考えれば、それで多根さんの「出来がいい」に説明がつく。

ゲーマーはみんな首を傾げ、ビートたけしのモノマネを自然としていた。

これに説明が付くのが、「なんだこのヤロ」「バカヤロ、このヤロ」じゃなくて「桜井さん最終調整・説」である。

この裏取りはドナルド・トランプがクリントンの暗殺をほのめかす発言をするように、後はゲ

ームジャーナリストの仕事。

桜井さんを是非、「サイレントエフェクト」の最終調整は桜井さんにと、記事に書いたが

「それはダメでしょう」

雇わなかった人のアイデアをつまみ食いする、最低。

と、思っていたが、これは逆だ。

『ナルティメット』から、ずっと最終調整をしていたのではないかと、それが正しければ、ナルティメットシリーズはワールドワイドで累計一千万本も売れたのは、全部、桜井さんのおかげ。

これも経費を秤にかけて、桜井さん個人の方が猿楽庁より経費が少なくてすむから、猿楽庁から乗り換えたのでは？ スマート経営である。

予想があっていたとしたら、

仮にサイバーコネクトツーツを支えていたのが、桜井さんだとしたら、かゝり系の雑誌記事ででかい面していた松山は、なんだったんだ。

ということになる。

おごりがあったのではないかと。

ダメなゲームというキャラクターゲームに流通するイメージを払拭したのは、桜井さんのおかげで、サイバーコネクトツーツは機体性能に頼った「みかけだまし」の無力デベロッパー、最終消費者のお口にペニスを突っ込むデベロッパーなんだけど、

評価をほしがる。

たくさんいるなんたらプロディーサーの一人ぐらい「大丈夫なの？」と、にするけど、安請け合した結果、このていたらくではないかと。

なんでガンダムのネタ潰しに勤しんでいるか、こちらのネタをつまみ食いされたら、大変だからだ。アイデア盗み食いはかなわん。予防戦争の論理だから。五社じゃなかったら、別にいいけど。

それじゃあ、佐野研二郎さんと、やってることと同じじゃないかと。

これは無いから言えるけど、もし、私の記事を読んで『アイスオブヘブン』にネタを入れようとか、ダービーでメダルがどうのこうのとか、やっていたら、原作にあることとはいえ、まずいよね。最低。

いうなれば、キリコの安楽死の毒薬を飲んでいる。

ギャグで敵に塩をやるが、なにかちゃんと毒を紛らせていると、それを野中広務の毒まんじゅ

うというか、それもうまそうに食べたら、

後はゲームジャーナストが裏取り調査してしらべてね。

ところが、遠隔地だから中央の記者が経費を賄えない。マスコミはすごく貧乏になった。当然ゲームマスコミも貧乏である。何度か、大阪日本橋の特集記事は出来ないのか、煽ったことがあるけど、大阪府内への出張経費も出ないのに、九州への経費なんて出るわけない。アメコミを輸入している代理店が関西に集中しているのか？ わからないわけである。いまだにわからない。

スタッフにペン取材とか、ムリだよ。ソフトバンク系のゲーマガでも休刊、かなり自由がきくゲームラボでも休刊。年に一度のE3取材に行けないからなのか。

時代劇が民放の地上波から消えるみたいな状況になっている。

どのジャンルも趣味性の高いものは、BSでの放送になっている。

だから、遠隔地でいろいろ噂が遠く、「サイバークラッカーズ」に引っかけられない。

名越さんみたいにどこの日焼けサロンに通ってるかまで、知れそうなことがない。あれを読んだ後、『龍が如く』のCMを観ると笑ってしまうけど、名越さんは今でも元気にやっていると、サイバークラッカーズを読まなくなった後でもわかるので、

ちゃんと裏取りしてね。

こういう楽しい憶測記事を○で伏せているけど、書けた雑誌が休刊していて、裏取れないのが悩ましい。

ゲームのDr.キリコからルドロジー的安楽死処方によると、『ガッチャマン クラウズ』にてはじめちゃんを生贄に差し出したようなことをしないと、くう様をポンとはじけさせることはできない。だから、同じ事が何度も起きる。

大きなスキームの中の一つにすぎないから、生活習慣病を改められないのと、同じ。

カロリー消費を抑えられないから何度も燃料投下になってしまう。

護送船団方式の

スキーム内で仕事を回すためと、わりきるしかない。

角川ホールディングスに出資して株式を取得した会社に、BtoBでやっていく。

それは大日本帝国という、大きなスキームだ。

ところが、大きなスキーム内だけどセクトの外、海軍と陸軍でセクトが違うように、ナムコセクトのやり方を真似すると、失敗してないか？ アイマスのマネとか、テイルズと同じようにしようとか、それで失敗していないか。うまくいえないけど、『ドットハック』は『ソードアートオンライン』のせいで陳腐化していないか。元々『アヴァロン』を水で薄めて甘くしたもの。

ポプラ社の出した本で、『SAO』に触れているとき、前提としてアニメ史におけるオンラインゲームを舞台にした作品で、『ドットハック』に触れていない。スキームの外の評価は、こんなものだ。

バンダイセクトの敵って、ナムコセクトじゃないか？ 海軍と陸軍は反目しあっているからいいが、ナムコセクトが足を引っ張りたくてやったわけじゃなく、敵意が無いのがかえって、性質が悪い。

ナムコセクト側、ソニー系のアニプレックスなら『刀語』のゲームは作れるけど、そこはちゃんとしたゲーム開発会社に頼まないと。

こんなことを書いているけど、心配だ。

心配性のお母さんだよ。

「オメエがスマブラ作っているから、ウチの品の品質管理が悪くなって、叩かれたじゃねえか」と、責任転嫁というか、下請けいじめみたいな、こんなこと言われてないか、心配。

相撲協会の理事長じゃないけど。

どっちかというと、特別常任顧問で、裏金を数えている。

『ガッチャマン クラウズ』で何がヒーローか語っていたけど、それは桜井政博さんだ。桜井さんが犠牲になっている。我らのロードオブロード。

角川も安泰じゃない。

実際は損保ジャパン日本興和・・・生命みたいな状態、日本って意味が二つあるじゃないか！ということになっている。出版社を吸収しまくっているのだ。

「ポプラ社も買収なさい！」

それで中核会社のはずの角川書店は出版事業を縮小傾向なのか、社内でけっこう希望退職を募っているらしい。

持ち株会社の名前になっているところすら、もう人月の後払いができないと、先払いして損切りしている。

取次が潰れて、債権放棄することになって小学館は雑誌の刊行間隔を広げたりしている。

「週刊少年サンデー」が危ない！（と思ったら安室透の雑誌になって延命。アムラーとは今、安室の女達である）

ケモノは
松山洋が
嫌いだよ



そりゃそうだ

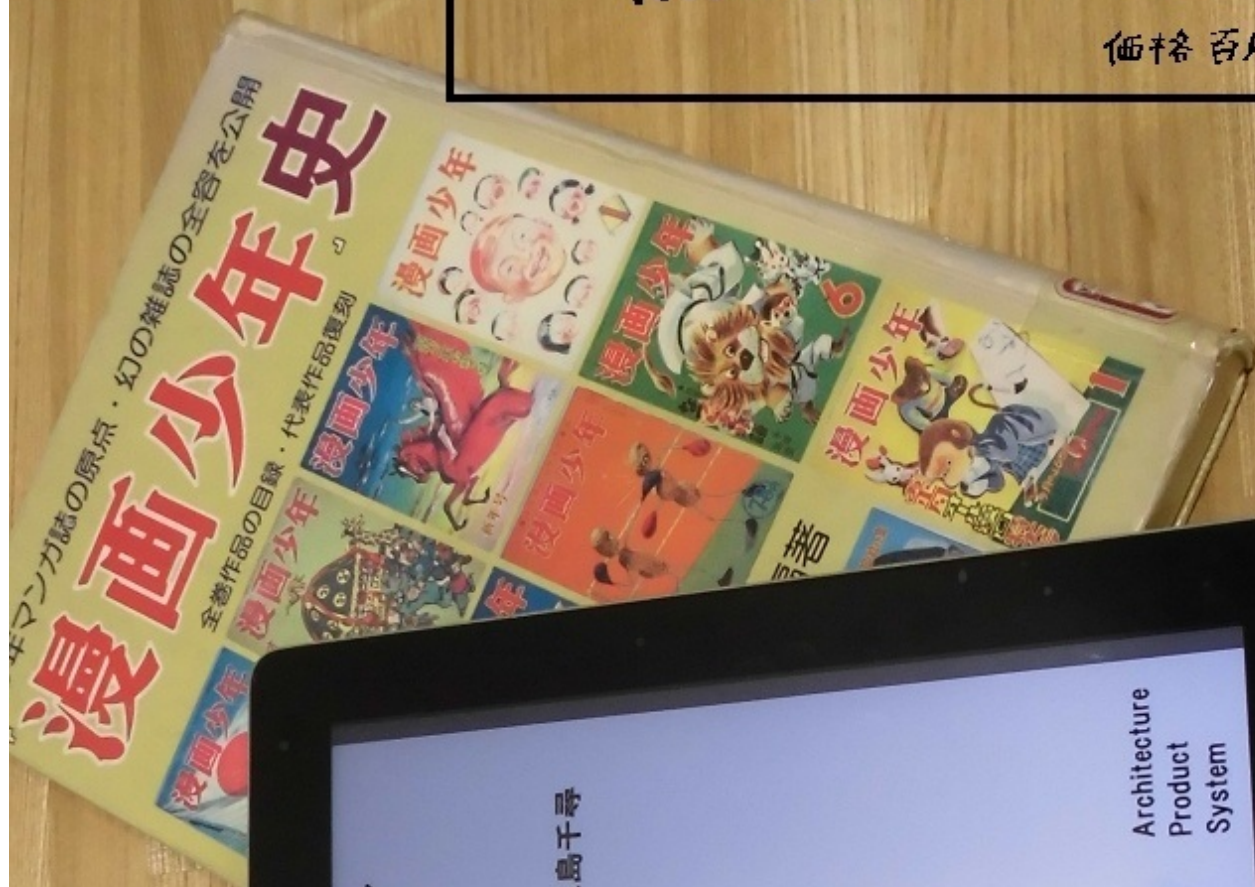
マンガレビュースペシャル

兄になりたかった人

持論の寺田ヒロオ評

完成

価格 百円+税



マンガレビュースペシャル
兄になりたかった人
持論の寺田ヒロオ評

五島千尋



Architecture
Product
System

アントン・ハイセル。

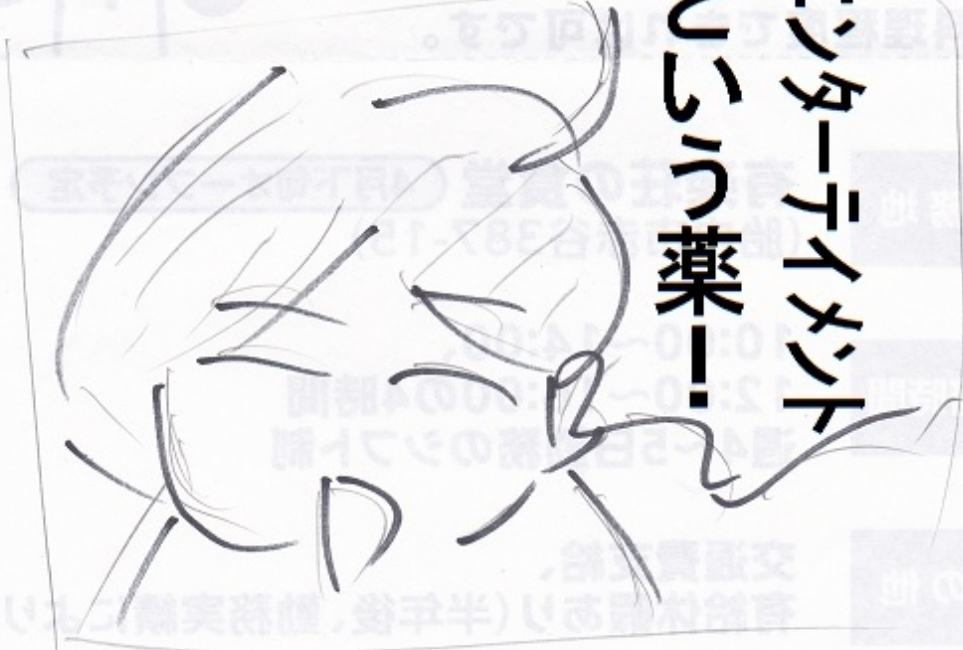
山際淳司なら「なんと魅力的言葉だろ

う。人は誰も自分の人生の中から最低一
つのアントン・ハイセルを作り出すことがで
きる」とか、書くだろう。

ピヨロタンのマンガを
宣伝している
あちらをしないのは
不公平だ



エンターテインメント
とくに薬!



この広告で松山洋が恥の上塗りの本を出していると
初めて知った人の方が、実売部数より多い

嫌われないのか、いじられたいのか、はっきりしろ

ファミ通の記事にポーズをとっている松山洋があるが、サマになって見えない。

後だしジャンケンだが、これは原作理解が足りない。

おそらく、ジョジョラーの間では普及しているはずの、一度、人形のように脱力してから、ポーズする。これは荒木飛呂彦本人が言っている人物を描くときに“関節があるロボットを描く”と、『荒木飛呂彦の漫画術』に語っている。

ほとんど答えを本人が話している。

このロボットの元は何かと言う、デザイン人形だ。

本人はあのプロテスタント系高校を出た後、デザイン学校に通い、まじめで勤勉で、プロテスタントイズムと資本主義的で、後は言うことは無い。

デザイン人形、それもけっこうお値段がはる本物のデザイナーさんが持っているものだろう。今は安くなっていて、千円以内で手に入るが。

ジョジョ立ちがあんなに変なのは、イタリア美術の影響ではなく、人間の関節では身体が異常に柔らかくできないポーズでも、デザイン人形だったらできるからだ。

「空気供給管の中にいいいいいい」も、デザイン人形をいじりすぎて、関節がとれるほど壊してしまい、パイプか何かの穴に入れて通れるからだ、『トイストーリー』の素敵なキャラクターのエピソードがあったんじゃないか。疑りたくなる。

私も心にシドを飼っている。

たぶん、デザイン人形のバリエーションで手首から先の右手左手の人形・パーツが販売されるようになってから、複雑な手先を表現するようになったのではないか。

このデザイン人形に、出版社に金があって海外へ取材旅行をしまくることのできた時期に行った先の民族人形の顔を被せたのが、スタンドだ。これも本人が民族人形であることはいろんなインタビューで答えている。

ドラクエの作り方みたいに、ナンバリングの前には慰安旅行を兼ねて、海外へ取材旅行へ行くようなもの。

ふつう、原作者にこういうことは聞いている。

アニメ制作陣にも言っているだろうし、ゲーム制作陣も言っているはず。つまり、その作業がすんだから、『漫画術』で公表したのだろう。

東方文献流出みたいな。

で、持永只仁じゃないのだからデザイン人形をコマ撮りしたストップモーションアニメを作ればいいわけではないのだから、これをふまえた上で、一旦忘れる。

当たり前の事、押井守なら教養以前の常識だけどさ、マンガ・アニメ・ゲームの求められる演技水準は違う。変に原作準拠をしすぎると、ゲームとして狂いが生じる。それはマンガを原作とする、アニメも同じ。

葉鍵が好きな津田監督（別に葉鍵系をバカにしているわけではない）は、距離があるから客観的にできるのでは？ 津田監督にも「あの伊集院のKeyみたいなイベントスチル、好きですか？」

と訊いてみよう。ホタルの群生地、Key半島なんじゃねえか。

「Architecture Product Systemは『クラナド』のアニメを作った京都アニメーションを応援しています」

もうひとつ、解剖美術をやっていないのを強みにしている。本来洋画家で解剖美術をやっていないのは、コンプレックスを持つが、荒木はそれが極めて少ない。

筋肉の無いスタンドは解剖美術から解放されている。

若手のアニメーターの絵を見たベテランアニメーターはプロファイリングできる。荒木の線は人体にメスを入れたことが無い線だ。実銃を撃った事が無いアニメーターの描いたガンアクションのように、人の肉にメスを刺した事が無いのがなんとなく、わかる。

それは必然的に漢字の固いじゃなくて硬い筋肉をつくる。これはペンも影響していて、マンガ表現論における筆記用具で表現が規定される。柔らかい肉体は安彦良和のように筆で描く。

大友の球体にイタリア美術に触れてねじる。球をねじると楕円形にせず、回転させる。だから、ジャイロの鉄球は回転する。

「これがマンガ表現論だ！」

第二部で野郎ばかり出てきて、話もカタくなったときにリサリサが出てこない、硬質が過ぎる。

そして、どんどんペンで筋肉を描くと硬くなり、波紋が通る。硬質で金属的だから、電気の暗喩である波紋が通る。プラスの波紋とマイナスの波紋があることで、電気のメタファーであるのは、否めない。そして電導的であるのも導体テレパシーのようなこと（導体テレキネシス）ができることで、裏付けられよう。

こうした近代科学で説明しないと、読者は理解できない。フロギストン説をとると、読者が少なくなるように、近代科学でなかったら、多くの読者を獲得できない。

だけどフロギストンやヴァルカン、現代科学で否定されたものに基づいている時代を舞台にするのは、危険。主人公がニュートン物理学を越えた発言をうっかりしてしまうかも、しれないのだ。

ニュートン物理学だと、内惑星に水星金星ヴァルカンがないと、説明がつかない。空間による質量の引力では、時間の概念が無い。だからニュートンの本『プリンキピア』（ダビスタの母馬の元ネタ）で書かれていることは、おかしいと言われている。

アインシュタイン登場まで、ヴァルカンがあると科学的に信じられていたのは仕方ない。

新しい観測手段、科学パラダイムを変える天才が現れると、正確になっていく。しかし予想的には大本命のダークマターを失う事もありえる。

「話をもどすぞー」

いわゆるラスボスと言われるスタンドはそうとうに硬くなる。だからザ・ワールドは拳で叩かれて割れる。これは硬いから起こる。

キラークイーンのシックスパックは鎧の装甲のようだ。夏目さんの『ドラゴンボール』評でも、スーパーサイヤ人化した悟空は異様なテンションで、筋肉も硬くなる。

あまりにも硬くなると、生物学を取り入れて、柔らかくする。

それで硬軟のバランスをとっている。

解剖美術をやっていないコンプレックスが、岸辺露伴のクモを解剖して中身をすするのに表れている。レンブランドの「解剖学講義」のような、舌でなめるように解剖美術をしたい願望が出ている。珍しい描写だ。

そして生物学を取り込んで、硬くなるのを柔らかくしてもいる。硬さが臨界を越えたのが、スーパーフライから出た瞬間の丈助だろう。

医学生時代に解剖の実習をしなくてはいけなかった手塚は、あれだけ虫を虐待していたのに、解剖の方はお嫌いなようで、だがこの体験のおかげで、後に『ブラック・ジャック』で生理的に拒否反応が出ないペン線画に、手術シーンを描ける。それは逆に柔らかいを取り除く作業で、

これは重箱の隅をつつくことだが、チョコレータの体の分割後、縫ったら一瞬で元通りは、血管神経、そして筋肉を縫い直さなければいけない緊急医療現場を体験したら、そんな瑣末なことはどうでもいい。

セクシーさ、エロティシズムはカラー絵で表現されている。安彦良和を引いたのは、他でもない。筆を使っているからだ。安彦さんは満州から引き上げてきて、中国の現地の筆を、小野Dが問屋のように持っていると表すぐらい手元にあり、それで筆で肥瘦線を描く。

荒木の場合、黒ベタで化粧をしている。

実際にサイバーコネクトツアのスタッフにデザイン人形を渡しても、

「いらねえよ」

と言われる。

荒木から聞き出したデザイン人形を、海外向けの翻訳用にちゃんと現地の言葉ラベルを貼れる空欄があるゴミ箱に捨てられるだろう。

そもそも、それぐらい社内にあるだろう。

無かったら、原作理解が足りない。

「『ジョジョの奇妙な冒険』、ちゃんと読んだことある？」

リリースされるソフトのあり方をみると、少し意見を言いたくなる。

そこで卑怯にも御大富野監督のおことばを引く。

引用指定

コンピュータゲームの世界でもおなじで、システムからして新しいゲームをつくったひとつとして、どれだけいるだろうか？ 碁石を赤くして新しいゲームをつくったと勘違いしているひとが大半で、新しいハードがでてくるおかげで、ソフトを移植して生きていられても、それは創作行為ではない。

画面の車体に映り込みが描けたって、それでも売れていれば、新作ゲームを開発したとしんじられて、ゲーム・プランナーという職業がなりたつ。それは、めでたい。

が、クリエートするという部分ではちがうということは、承知していなければならない。人気なくなるまで聞く耳をもたないと、ぼくのように十五年も死んだままになる。

それではみっともない。

富野由悠季『ターンAの癒し』

嫌われないから言うけど、これからみっともないところを、見せておくれよ。

これは無いから言えるけど、虚刀流の構えは荒木マンガの継承的身体表現、弟子が師から一子相伝で教わる秘儀にして秘技のような、後継者が西尾維新だ。

波紋法には鎧通しがある。百万回蛙殴っても出ない音の時、後に歴史修正主義で家族がいることになったツェペリがやっている。観ればわかるとおり、デザイン人形は手先が手刀の形で、これをジョジョの第一部二部ぐらいの表紙でその世代のジョジョが構えているのは、作画環境がベースにあった、そうした理由があった。

だからもし虚刀流に零代目がいるなら、それは荒木だ。

西尾には「あの方」と『ハリーポッター』の敵みたいなことを言われている。だが、デザイン人形の姿が虚刀流の構えに転用できる。

PS3では究極のジョジョゲーは作れない。

PS5か、PS6ぐらいになる。逆にSCE（当時）のセル構想がうまくいっていたら、わからなかった。

一旦マンガ表現論から離れると、

ゲームからの解釈は、スタンドはスプライトであり、波紋とは、衝突判定ではないのか？

一部は、プログラミングそのもので、それは遠隔操作型のスタンドも同じである。

西尾は好きな作家じゃないから、サイバーコネクトツーに『刀語』のゲームを作ってもらったら、いいんじゃないか。ここまで話を聞いていれば、皮肉を言っていると誰でもわかるだろう。

オススメだね。

ローリング内沢が洋ゲーをオススメするみたいに。

西尾にお似合いだ。

今度はどんなふうに西尾の顔を潰してくれるのか、楽しみだね。

「なんの面白みも無いけどね」

西尾維新はダメになっていい。シャフト側だから、

価値があったのは、京都の二十歳の頃だよ。

私は嫌われたくて、やってんだ。

サイバーコネクトツーのゲームなんかやっている奴と、仲良くなんかなりたくねえよ。

アトラスをあれだけいじるのは、「お前ら会社が潰れたら、労働市場に人材が流れて、またサ

イバーコネクトツーが血を抜くみたいなことをするから、絶対に潰れるな」と、嫌われてもいいから表現している。

おそらく『世界樹の迷宮』のメインプログラマーやメインデザイナーは、雇われるからいいが、ジョブズ的な表現のBランク以下は志望動機の点について、雇わない。(押井本でも、役に立たないやつは組織に何割か、必ずいる)

そのために入社したい理由を書かせるのだから。

皆がこんな会社に心から入社したいなんて思わない。食い詰めてるだけだよ。正直に「食い詰めてます」って書くかね。

それに取り締まり役に「アイドルの抱き味はどうだった？」と、KADOKAWAの井上伸一郎(専務・けもフレ騒動で謝罪)に言う人間だ。KADOKAWAから嫌われたくてやっている。伊集院の場合、いじってる。肛門をいじってる。

なんでこういうことを書くかと言うと、角川書店は批判されることを極端に嫌う。

「BSマンガ夜話」で『ケロロ軍曹』と『よつばと』を取り上げるときは、散々「褒めてほしい」と釘を刺されていたから、岡田斗司夫に「最近、批判をしないでほしいと言われる」と、PR時に言っていたような気がする。

なんというか、元々いしかわじゅん先生の言う表現する物が無い同人作家をプロデビューさせて、プロなんだからとやかく言われて当然なんだけど、叩かれると描きたくなくなるマンガ家が(イラストレーターも)いたわけで、管理側はともかく悪口を言わないでくれと、はれものに触るような扱いをする。

ともかく批判をさせないという、風潮があるらしい。

関西人なら「それがイカンちゅうねん」と。

表現する物が無い同人作家をプロデビューってサイバーコネクトツーのことそのものじゃないのか？

その裏取りはどうでもよく、更科修一郎みたいに『エウレカセヴン』を批判すると、仕事を干すという、それどうなんだみたいな事までするらしい。

たしかに西海岸のヒッピー文化からカリフォルニアイデオロギーと、東海岸の王権・キリスト教的旧弊から逃れてきたのに、今度は新しい王権・キリスト教の守旧になってしまった対立を描くとか、あればいいが、ロック親父慰撫、サマー・オブ・ラブ万歳(マンセー)では、更科さんの批判は当然であって、無い方がやばい。気持ち悪い、言論統制！ いいすぎ。

悪口言われて、ダメになるくらいなら、ダメになった方がいい。

何がダメって全部ダメ

GFF AWARDをしているけど、鎮西討伐だ。なら学生にもマウンティングしておこう。昔なつかしいたとえで、マウントをとってTKシザーズに気をつけながら、氷の拳を振りおろす。

まず、専門学校で『ありえない未来の思い出たち』以上のゲームクリエーションを授業で教えないなら、それは授業料泥棒だ。

だいたい、ほぼ無料で閲覧できる内容のものより、高度なことができないのは、学生をなめているか、ゲーム業界をなめているか、どちらかだ。

その根拠を与えているのは、他ならぬレベルファイブやサイバーコネクトツーであるのは、忘れちゃいけない。勝っているように見えるけど、実は後退戦、

プログラマーやデザイナーは『あり思』以上のことができないプランナーがいたら、そいつは実力が無いから、高く評価しなくていいし、まず褒められない。

足りない奴、となめていい。

私はサイバーコネクトツーになめられていたから、それで正しい。

何がダメって、全部ダメ。

わかりやすい例は、体育会系なら、体罰。

親会社の意向で雑誌に記事を書いてもらってハロー効果を出しているにすぎないとか、

テキストを書くなら、文読みたいなもの一つも二つも作れないといけない。

文章読本の本質である旧仮名遣いを再興する結果を求められる。

それが、できなかつたら、何がダメって、全部ダメ。

わかりやすい例は文科系なら、小林秀雄並に高圧なことを言われる。担当編集が泣くまでやめない。泣いてもやめない。

『ジョジョの奇妙な冒険』よりも、酷い。

Mirror Shieldみたいなヤツ、十も二十もできる。

だいたいあれ、失敗作でクオリティーが低い。

任天堂は頼めばいいんだよ。Mirror Shield以上のものをサイバーコネクトツーが作ってくれるよ。内部留保をどぶに捨てることになると思うけどね。

私以上のことができなければ、労働賃金が支払われない。それを決めたのは、他ならぬサイバーコネクトツーだけど、それを否定しちゃだめだろう。

何がダメって、全部ダメ。

現実には私はゲーム業界で働いていないのだから、実力が無いから、雇用されないという現実を教えるのが、教育だろう。

だいたい私が「コトバを食べる、ケモノ。」を作っても、クソゲーハンター多根清史に「これは国語の模擬のゲームなんかじゃない。わざとケンケンパのタイミングを外してケモノを川に突き落とす、吊り橋を揺らしてケモノを谷に突き落とす、幽霊屋敷の部屋にケモノを閉じ込めてその恐怖に慄くりアクションを楽しむゲーム」だと、バレルよ。

確かに川に流されるケモちゃんが、流れで回転するのは、俗にいう「確信犯」であるのは、否めない。部屋の中で閉じ込めて、扉の前で阿鼻叫喚を聞き、一人称がケモノから「ボクが悪かったよ！ 開けて、開けてー！」と泣き叫ぶレスポンスを楽しむ多根清史みたいなヤツが喜ぶことをしなくてはいけない。

それとも、自分達を評価する側が、低く評価して雇用もしなかった人間の作るモノすら越えられないというのか？ それで何の根拠も無い選民主義を持てるかね？

影響はほぼ無いけど、私以上の影響力がないとダメだ。コピー&ペーストすると、それとも、自分達を評価する側が、低く評価して雇用もしなかった人間が世の中に与えた影響すら越えられないというのか？

それって、何がダメって、全部ダメ。

できるだけ書かないようにしてきたけど、アニソンが得意なオーイシお兄さんに「お前、作詞協力してやったんだから、印税半分よこせ」とジャスラックみたいに言ったら、イヤだろ？ けもフレ騒動が起きているから、なおさら。

同人活動なら『ロックマン バンドデシネ』みたいに、唯魂論とロボティクスダーウィズムのイデオロギー闘争が、はじまりのレプリロイド開発にスポイルされていたとか、実は誰でもできることで、評価なんかされない。

それはプロテスタント系のジョリーンと、カソリック系の神父という対立軸を作っているのと、変わらない。実は荒木飛呂彦も、本当には評価しておらず、誰かの評価の後追いしているのではないか、

「金星の失樂園」とは何なのか。

わかる人はわかっているけど、あえて説明すると、デザイナーズチルドレンもまた、ロボットである。

同性愛の因子が必ず発現するように遺伝子を作りかえられても、異性愛者が発生する。それは、戯曲で皆知っている通り、カレル・チャペックの「ロボット」だ。

僭主・江川伊右衛門は、『ジョイメカファイト』のイーモンから取られているけど、「ロボット」で子供がほしいというアダムとイヴにあたるロボットに子供を与える博士の役だ。

つまり、「失樂園」を二重に引いた、「ワカメの向こうのロボットアニメ」でも、この程度はやる。のれんの先の物語だ。ちゃんと避けずに、『景の海のアペイリア』はポルノソフトなのに、オプティックの話をする。それはポルノグラフィーを表現していればいいのではなく、光学を付加価値としてつけないと、売れないということ。最終消費者が納得しない。

仁井谷さんが言っているように、ポルノは消費の最終段階。

後が無い。

自分たちで作ったハードルを、自分たちが越えられないなんて、そんな滑稽なことがあるか。大吉先生の顔とかに、泥を塗るようなマネをしてほしくない。

自分の労働力より、劣った人間をボスになんかしたくない。

なぜなら、私の労働力は低いからだ。

ゲーム業界で通用しない。

どのくらいかは、労働賃金が出ない。

お墨付きを与えるというか、人を侮辱していたのがサイバーコネクトツーで、何度も書くが、それは自分たちに返ってくる。弱いものいじめが、楽しかったのだろうなあ。

そういう人材しか雇ってないだろうなあ。

「ななつとみつつとひとつ」を中級者向けにルドゥスアップしていけば、当然加点法が問題になってくるけど、

それは数学者が納得するものでなければならない。

松山洋は、これができなかつたら、部下を納得させられない。もともとゲームデザイナーという、90年代に馬鹿にされた職種であるなら、できなければダメだ。阿部さんがあわわってバカにした職種。

何がダメって、全部ダメ。

どうせ、影で数学者に依頼したのを、そのまま「自分がやった」と皆を騙すことをするんだろうなあ。それで簡単にイメージキャピタルが盗みだせるのなら、いいのだけど。

そんな虚偽を働いて「ファミ通」にその記事を書いてもらえば、いいじゃないか。国内では「ファミ通」以外は、児童向けのゲーム雑誌しか残らないだろう。「CONTINUE」の復刊はゲーム雑誌じゃなかった。

それとも、「私が数学者が納得する加点法を編み出していないとでも？」と、言ってほしいのかね。

2と5を減点にしてもいいんだよ。

社名に数字が入っている会社が「ななつとみつつとひとつ」の考案者を雇用せず、企画自体を見ていなかった。

この一つだけで、母数が足りないとか、代表制バイアスだとか、文句があってもビデオゲームの神が、数学の神よりも恐ろしい邪神であることがわかるだろう。

荒木飛呂彦が好きそうな、ウソのような本当の話。素数役があるカードゲームの資料を、見もしなかった。フィボナッチ数の作る螺旋を見てなかった。それでちゃんと原作理解ってできる

のか？

連邦VSジオンで、荒木飛呂彦先生のお手をわずらすこともなかったと思う。こういう「先生」と言うわけでなく、普段から先生とちゃんと言っているけどね。

舞城みたいに、世界を密室に、さらに宇宙を密室にという、いつものやつをやればいいのかろう？

ゴーストライターかもしれないけど、

ルドロジーのカイヨワ派なら、何をやればいいのかわかる。文宝町をスニーカー文庫に…森王町をスニーカー文庫に移築した計画都市『サクラダリセット』には、最近資料を見返した『イメージと人間』の怪奇小説の12分類をだいたいやっている。スティーブン・キングに遡るんじゃないかと、カイヨワに遡ればいい。

12分類の組み合わせをすればいい。

たとえば、“安らかな眠りを得るためにある行為が実行されることを求める、地獄の苦しみにあう靈魂”とは、吉良吉影のことだろう。“とらえどころがなく目に見えないが、重さがあり、すぐそこにいることを否定できない《存在》”の存在の部分に幽波紋を代入できる。

ただ、カイヨワの古典ルドロジーはゲーム製作の現場では否定されている。

否定されているから本書がある。

『ありえない未来の思い出たち』だってある。

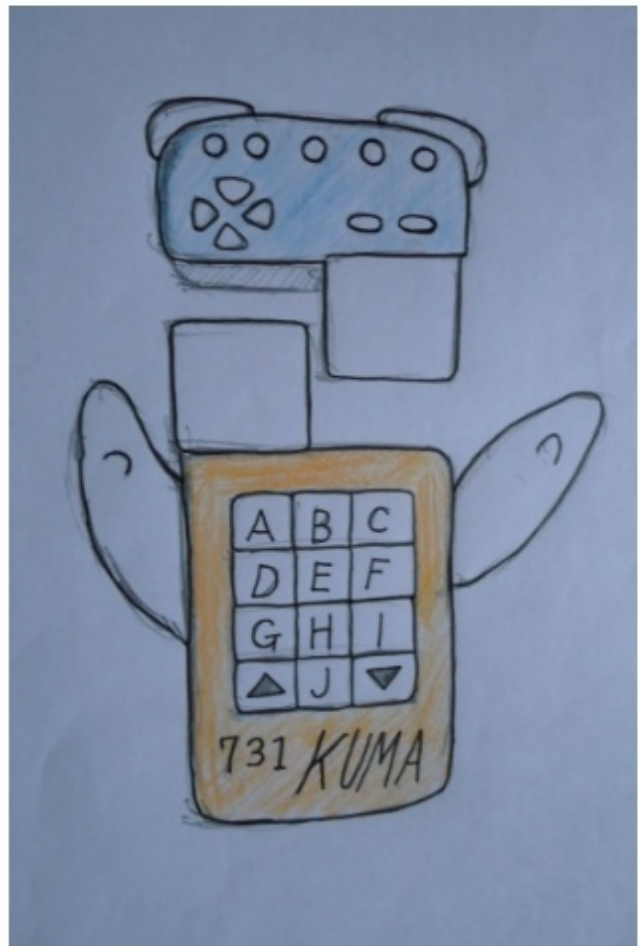
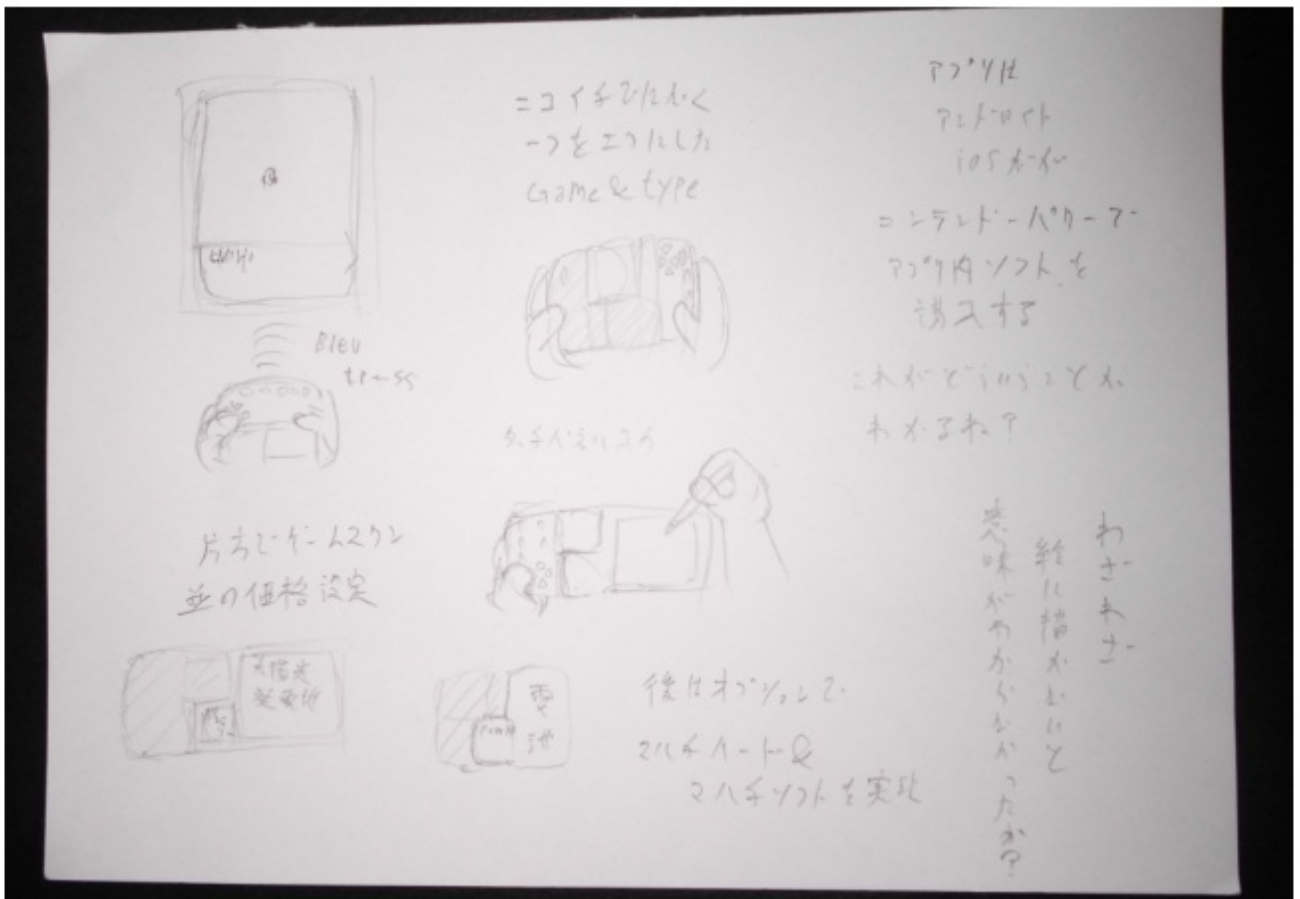
本当は、カイヨワから繋がる『ジョジョの奇妙な冒険』も否定しているだろう。

それにゲーム会社に働いていれば、これ以上のことができる。できなかつたら、どうやってメシを食うんだよ。何がダメって全部ダメ。

最後にtagtypeのことをもう一度、田川少年がえとう乱星さんとテレビゲームで遊んだ思い出で作られたプロダクトを難癖つけて、その資料を見なかった。それも九州のゲーム開発会社が。

次はレベルファイブだ。

日野さんは、お金持ちなんだよね。



これがニンテンドースイッチの元ネタ

と言っても誰も信じない 色が似てるだけ
 サイバーコネクトツリーに入社できなかった
 人間のアイデアを任天堂の社員が盗るわけがない

GAME REVIEW SPECIAL DOMESTIC DEVELOPER

<http://p.booklog.jp/book/112290>

著者：ゴトチヒ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gotchihi1980/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/112290>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト

